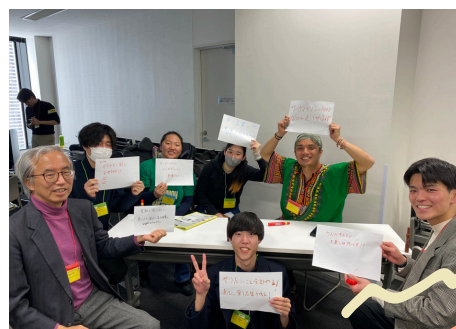


HUMANO

2025.9 VOL.12



笑顔がつなぐ交流の輪





目次



01 北信越ブロックイベント（長野県）

02 東海ブロックイベント（静岡県）

03 近畿ブロックイベント（兵庫県）

04 東海チャレンジャーズサミット

05 タイ福島ホームステイプログラム

06 全事業交流会

07 Meetupイベント

IYEO 広報誌 HUMANO vol.12

編集・発行 日本青年国際交流機構(IYEO) International Youth Exchange Organization of Japan

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階

E-mail: iyeo.press@gmail.com ウェブサイト: <http://www.iyeo.or.jp>

HUMANOは会員手作りの広報誌です。一緒に活動するメンバーを大募集中！

編集: 三宅香菜子、横倉萌子、北山英弥恵、笹木愛

デザイン: 櫻井真優



01 北信越ブロックイベント（長野県）

ブロックイベントとは？

日本青年国際交流機構（IYEO：International Youth Exchange Organization of Japan）では、47都道府県で自主的な団体を組織して、幅広い活動を展開しています。また、北海道・東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州の8ブロックに分かれ、ブロックイベント（青少年国際交流を通して国際社会や地域社会への貢献を考えるつどい）を開催しています。

IYEO北信越ブロックイベント「ワールドキャリアカフェ2025 ～海外経験を長野で活かす～」が2025年3月2日、長野市のリノベーション施設「R-depot」にて開催されました。当日は、内閣府青年国際交流事業の参加者や地域の若者など、総勢95名が集まり、世代や立場を越えた交流の場となりました。

第1部では、小布施町立図書館長・志賀アリカさんが基調講演に登壇。国際協力NPOや行政など多様なフィールドでの経験をもとに、「自分は何者で、どこへ向かうのか」という問いかけが参加者に深く響きました。その後のパネルトークでは、志賀さんに加え、バリスタの富永海平さん、小海町の地域おこし協力隊・圓山佐登子さんが登壇。長野という地域で海外経験をどう活かしているのか、リアルな声が交わされました。



カフェ交流会では、登壇者と参加者がグループに分かれ、コーヒー片手にリラックスした雰囲気でも語り合いました。「もっと話したかった」との声も多く聞かれ、活発な意見交換が行われました。



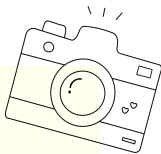
第2部では、内閣府青年国際交流事業の紹介や、2024年度「世界青年の船」参加者による事業終了から1週間後のフレッシュな体験談発表があり、これから挑戦を考える若者にとって貴重なきっかけとなりました。長野県IYEOの活動紹介では、マレーシアやミャンマー出身のメンバーも登場し、多文化共生の輪が広がる瞬間でした。



イベントを通じ、参加者一人ひとりが自身の経験や可能性について前向きに向き合い、新たな気づきや視点を得ることができました。地域と世界をつなぐヒントにあふれた、学びと出会いの詰まった一日となりました。

おまけショット

イベント当日開催前には、国宝である善光寺のオプションツアーが企画されました。善光寺だけでなく、その周辺に点在する関連の名所や、地元の方ならではの視点でおすすめのお土産なども紹介してもらい、参加者からは「長野IYEOスタッフの観光案内が素晴らしく、非常に楽しかったです!」と大好評でした。



02 東海ブロックイベント（静岡県）



2025年7月5日、静岡市東部勤労者福祉センター 清水テルサにて東海ブロックイベントを開催し、87名が参加しました。大会テーマは“小さなまちから始まる未来づくり～「ローカル×グローバル」の視点を活かした地域活性化の可能性～”。基調講演では、エムスクエア・ラボ代表の加藤百合子氏より、静岡県から全国に広がった野菜共同配送システム「やさいバス」やインドでの農業展開など農業と様々な分野を掛け合わせて課題解決に挑んでいる様子をお話いただきました。

分科会では3つのテーマに分かれ、それぞれ静岡県内でグローバルな視点を持ちながら地域活性化に貢献している講師を交え、参加者同士が議論できる機会を提供しました。

【分科会A】 たかがソースされどソース ～こだわりのソースを静岡から世界へ～

講師：鳥居大資氏 鳥居食品株式会社 代表取締役
第6回「世界青年の船」事業参加



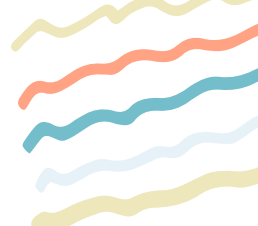
【分科会B】 「人と人をつなぐ仕事」 地域と世界を結び、私のストーリー

講師：永井美香子氏 「kirkekafe」オーナー
静岡県ボッチャ協会創設者
「国際青年育成交流事業」スウェーデン派遣参加



【分科会C】

お茶で旅する静岡めぐり
～茶葉から広がる、お茶の楽しみ～
講師：公益財団法人 世界緑茶協会



第2部では、昨年度参加青年の鈴木照瑩氏（令和6年度「東南アジア青年の船」事業参加）と金澤邑香氏（令和6年度「世界青年の船」事業参加）から事業参加報告後、"つなぐ"を仕事にする国際経験と地域づくりの交差点～清水港客船受入れの事例から～をテーマに静岡市 観光交流文化局 観光政策課主査の武馬千恵氏（第18回「世界青年の船」事業参加）より講演していただきました。参加者からは寄港地の裏事情や苦勞を聞いて興味深かったなどの感想が寄せられました。



そして第2部の最後には、令和6年度「世界青年の船」事業の静岡プログラム受入れで好評だったトークフォークダンス＝二重の円の形で着席し、フォークダンスのようにどんどん相手を変えて異文化体験などのテーマについて対話を実施しました。短時間で多くの人と交流できました。



トークフォークダンス

ブロックイベント企画の裏側：内容を決めるにあたり、昨年度「世界青年の船」の受入れ時に集まった会員が、日頃様々な場で活躍しており、深掘りしたら面白いのでは？ということからスタートしました。また今年からIYEO会員になったメンバーが実行委員としても活躍してくれました。さらに、今回のブロックイベントでは、内閣府事業既参加青年が講師として登壇しています。

今年からIYEO会員になり実行委員として活躍してくれた鈴木さん
実際に実行委員として活動してみてどうだったか感想を教えてくださいました。

私は今回のブロックイベントで実行委員として主に第1部の司会と、昨年参加した東南アジア青年の船の事業報告を務めさせていただきました。

まず司会については、立場上会場全体を見渡すことが多かったのですが、老若男女問わず色々な方が来場されている印象を受けました。

また、個人的には基調講演の質疑応答の時間の立ち回りなど難しい部分もありましたが、事前の計画がしっかり決まっていたこともあり、概ねうまくこなせたのではないかと思います。

次に事業報告に関しては、会員から一般の方までさまざまな方に聞いていただき、自分の経験を広く発信する貴重な機会でした。10分という時間は短すぎると感じるくらいでした。質疑応答の時間もあれば良かったのではないかと思います。

今後も今回のように会員が活躍する姿を発信する場としてブロックイベントなどの活動運営をできたらと思います。



鈴木照瑩（しょうけい）さん
第48回（2024年）
「東南アジア青年の船」事業参加

03 近畿ブロックイベント（兵庫県）

令和6年度 青少年国際交流を通して国際社会や地域社会への貢献を考えるつどい
近畿ブロックイベント（兵庫県）を2025年1月18日に開催しました。



【開催報告】

近畿ブロックイベント（2025年1月18日）

・テーマ

「場づくり×国際交流×地域貢献～関西場づくりサミット～」

・集客 目標100名に対して132名

（主催者・実行委員など関係者15名含む）

・満足度 非常に満足63%・満足31%

／参加者の声／

パネルディスカッション

「きっかけは暮らしの拠点から～シェアハウスで変える地域と世界の未来～」

事例がたくさんで満足で地域を支えるという発想がおもしろかった。



分科会C

「世界を巡る旅人が愛した「シン長田」まち歩き」

食べ歩きに分科会というのが斬新で、子連れでも参加しやすかったです。



ドリームピッチコンテスト

みなさんのパワーがすごかった。40代の私には今日明日を生きていくことのできないくらいだったので夢をもってみたいと思います。



「予祝(よしゅく)」みんなで踊ろう！

みんなで踊ったこの日は一生忘れません！



能登支援パネル展示

みなさまから支援いただいた47,280円の募金は七尾高校生ダンス部の皆さんが万博ステージで踊っていただくための交通費・宿泊費として活用させていただきました。



近畿ブロック幹事であり、個人的に大阪・関西万博でもボランティア活動されている岡本さんに突撃してきました！

岡本さん、こんばんは！
ボランティア中に失礼いたします。
1月に開催された近畿ブロックイベント、今、7月のインタビューでかなり記憶が薄らいでいるのですが...今日はよろしくお願いします。

次のページへ！



①2025年1月の近畿ブロック大会を振り返って、今も印象に残っているエピソード(裏話や制作秘話)はありますか？

◆ 激動の2025年の幕開け——ダンスに込めた想い

2025年の始まりを飾ったのが、近畿ブロックイベントでした。実は1年前の6月ごろから、大会に向けた準備と並行して、万博のステージで披露するためのダンス練習がスタートしていたんです。

予祝では、福岡県のダンスグループ「Starry 69 Dance Studio」の皆さんにご出演いただきました。このチームは年齢も性別も住む場所もバラバラなメンバーで構成されていますが、2025年大阪・関西万博への出演が決定していることから、今回お願いをしました。

実は、ダンス未経験のメンバーも多く、「ステージに立つなんて夢のよう」と話していたほど。それでも、サトコ先生の熱い指導のもと、みんなで練習に励みました。「IYEO会員や長田の皆さんの夢が、ダンスという形で一つになったような瞬間だった」と感じるほど、当日はものすごい一体感が生まれ、アンコールも飛び出すほどの盛り上がりになりました。

あの時の感動は、今も忘れられません。練習して、本当に良かったと思います。

②ブロックイベントや幹事の経験を通じて、あらためて感じた“この団体らしさ”とは？

◆ 責任の重さが生む、IYEOならではの緊張感

IYEOのイベント運営は、内閣府が主催となることも多く、自然と気が引き締まります。税金を活用して行う活動だからこそ、決していい加減なことではできない——そんな思いが常にあるんです。

地域のコミュニティでもいろいろなボランティア活動に関わってきましたが、IYEOでの活動は責任の重みがまったく違うと感じています。その分、達成感も大きく、「この団体だからこそ味わえる緊張感と充実感」があると思います。

③岡本さんがIYEOに入会された30年前と今のIYEO活動で、大きく変わったと感じることは何ですか？

◆ 組織としての成長と、テクノロジーの力

私がIYEOに入会したのは約30年前。当時はまだ推進センターも存在しておらず、活動の基盤は今ほど整っていませんでした。それが今では、組織としての土台がしっかり築かれていて、とても安心感があります。また、テクノロジーの進化によって、活動そのものも大きく変わりました。通信手段や交通インフラの発達により、やりとりが格段にスムーズになっています。

たとえば、今ではZoomやLINE、役員間ではTeamsも活用しながら、短時間で細やかな調整が可能になりました。昔は、代表が東京まで行って会議に出席するのが当たり前でしたが、今はオンラインで集まれる時代です。

さらに、推進センターの皆さんのサポートにもとても助けられています。ブロックイベントの準備段階から実行委員会の立ち上げを支援してもらえたり、企画書をメールでやりとりしながら何度も校正していただけたりと、活動を支える体制がしっかり整っています。そうした「頼れる存

在」があることで、安心して取り組めるようになったと実感しています。

④大阪は今万博で盛り上がっています。岡本さんもボランティアの制服似合ってますね。大阪・関西万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマで開催されていますが、今後、岡本さんが取り組みたい「未来社会のデザイン」について聞かせてください。

◆ 「生きてて良かった」と思える未来社会へ

「未来社会のデザイン」と言われると難しいですが、万博会場の展示を見ていて、医療技術の進歩やiPS細胞、アバターに記憶を引き継ぐ研究など、これからの世界は“平均寿命100歳時代”に向かっているんだなと実感しました。でも私が本当に目指したいのは、寿命をただ伸ばす社会ではなく、すべての人が「生きてて良かった」と心から思える社会です。

現在、非行に関わった少年の立ち直りを支援するプログラムにも関わっています。その中で、国際交流や文化活動に参加したくてもできない若者たち、ネットワークにアクセスできない人々の存在を強く感じています。

IYEOで活動する仲間や、万博に足を運ぶ人たちとの間にある「見えない格差」を前に、「どうすればいいのだろう」と考える日々です。

貧困、飢餓、戦争、犯罪...社会にはまだまだ課題が残っています。誰もが幸せを実感しながら生きられる明るい未来に向けて、小さくても自分ができることを重ねていきたい。

そして一人ひとりの、かけがえのない日常を大切に守って、いける社会づくりに、これからも関わっていきたくと思っています。

◆ つながる想い、広がる未来へ

2025年1月、かつて阪神・淡路大震災で甚大な被害を受けた新長田の地に、再び人が集い、夢を語り、夢を共有する場を持たせたことに、心から感謝しています。

あの日から30年。懸命に生き抜き、復興に力を尽くしてくださった多くの方々がいるからこそ、私たちは今、こうして素晴らしいイベントを開催することができました。たくさんのいのちのリレーがつながり、今日という日があります。本当にありがとうございました。

～次回予告～

次回の近畿ブロックイベントは
2026年9月12日(土)～13日(日)、
奈良県奈良市にて全国大会を担当します。
歴史と文化が息づく「古都・奈良」
で、また皆さまとお会いできるのを楽しみにしております！



04 東海チャレンジャーズサミット

東海地方にゆかりのある多分野のキーマンやチャレンジャーが集う「東海チャレンジャーズサミット」が2025年2月11日に愛知県で開催されました。3回目となる今回のテーマは「Bonding Beyond Borders～越境者たちよ、世代を超えて繋がろう～」。今の若者が意思決定層となる2050年、その先を見据えて世界と世代を超えた対話と交流の場となりました。

最初のパネルディスカッションでは、「次世代リーダーが踏み出す未来に向けた一歩」というテーマで、高校生、大学生、若手起業家のパネラー3名にモデレーターを交えて実施しました。一歩踏み出したきっかけや、新しいことにチャレンジするときのマインドセットなどをそれぞれの視点から語っていただきました。

参加者と近い年代・境遇のパネラーが、参加者をエンパワーメントする存在となっていました。



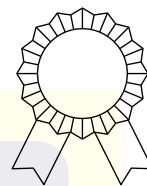
分科会では、若手トップランナーから各ジャンルの最新事例や解決したい課題について共有するディスカッションやワークショップを実施しました。ローカル・ソーシャル・グローバル・アート/クリエイティブなど7つのグループに分かれ、興味のある分野の世界を掘り下げ、各々のネクストアクションを考える機会となりました。

その後、海外派遣事業合同報告会、東海チャレンジャーズピッチが行われ、最後のネクストアクションブース交流会では、参加者の興味関心を次のアクション・挑戦に落とし込むことを目的として実施しました。21もの団体が1分ずつピッチを実施し、8分×3タームのブース交流会で、参加者は興味をもった各団体のイベントやプログラムについて詳しく話を聞くことができました。



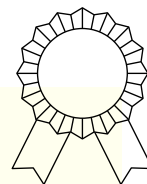
<実行委員長 渡辺彩花さん>

チャレサミ開催を通じ、一步自分の領域から飛び出してみることの大切さを改めて感じました。普段の自分では行かない領域に触れることは少し怖さもありますが、新しい自分や挑戦を見つけるきっかけにもなります！チャレサミはきっかけに溢れている場です。次回のチャレサミ会場で皆さんをお待ちしております！



<副実行委員長 野村奈々子さん>

チャレサミが年度末に開催されるのは、あらゆる事業の報告が集結するためです。なかでも海外派遣事業報告会は、内閣府事業などの参加者・OBOG・ご家族も集結する場であり、報告を聞いた全員がエンパワーメントされる力強い場です。このようなチャレンジが連鎖する場を今後も作っていききたいと思います！



<次回開催予告>

2026年3月22日(日)に、第4回目のチャレンジャーズサミットが開催されます！2025年度 内閣府事業参加青年や、他の海外派遣プログラム参加者の報告が一度に聞けるイベントです。興味のある方は下記QRコードからお申し込みください！



05 タイ福島ホームステイプログラム

本事業は、内閣府青年国際交流事業の特色でもあるホームステイを通じて、国籍・年齢・性別を問わず人と人がつながる機会を創出し、地域社会と海外を結ぶ共生社会の実現を目指す社会貢献プロジェクトです。

直近では、2025年4月18日～20日に「タイ・福島パイロットプログラム」として、タイから内閣府事業既参加青年を含む参加者9名が福島県を訪れ、地元のホストファミリー宅でのホームステイを通じて、現地の方々との交流や地域の文化を体験しました。

本プログラムでは、「船と翼の会ふくしま」が主催し、IYEO社会貢献事業チームが協力するかたちで、ホームステイに加え、福島 naturally 文化・大学生との交流など、多彩なプログラムを展開しました。参加者は異文化を理解し、互いの価値観を共有する中で、深い学びと感動を得ることができました。

◇ 交流の様子

■ 1日目午前：桃の花落とし体験

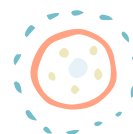
交流の最初のプログラムは、地元ならではの自然体験「桃の花落とし」。春の訪れを告げる鮮やかなピンクの花に囲まれながら、福島の地域文化に触れる貴重な時間を過ごしました。参加者同士で協力しながら作業を行い、自然と会話や写真撮影も弾みました。

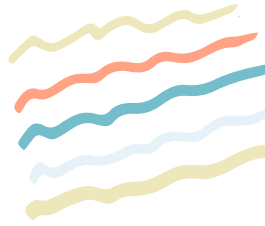


■ 1日目午後①：福島大学でのランチ交流とディスカッション

福島大学では、学生たちとランチを共にしながら交流。その後のディスカッションでは、タイの参加者がこれまでの自身の海外経験やキャリアパスを語り、日本の学生は現在学んでいる分野や将来の目標について英語で発表しました。

言語や文字、踊りなど、互いの文化を紹介し合う場面では、笑顔と驚きが溢れ、国境を越えた友情が育まれました。





■ 1日目午後②：御倉邸（おぐらてい）訪問

昭和初期の邸宅と日本庭園を有する御倉邸を訪問しました。和の空間の中で、日本の伝統建築の美しさや静けさを体感しました。

歴史や建物の背景に関する説明に熱心に耳を傾ける姿が印象的でした。



■ 1日目夕方：ホームステイマッチング

いよいよホームステイ先のホストファミリーとの対面。家族の皆さんは名前入りのうちわやウェルカムボードを用意して温かく迎えてくださいました。

参加者も笑顔で手を取り合いながら直ぐ打ち解けていき、まさにこの事業の目的である「人と人とのつながり」が実現する瞬間となりました。



■ 2～3日目：ホームステイ

2日目は、それぞれの家庭で過ごすホームステイ体験の日。家族と一緒に地元の食文化を楽しんだり、観光や散策に出かけたりと、様々な体験を通じて日本の暮らしや価値観に触れました。

■ 最終日：お別れ

名残惜しさがあふれるなか、感謝の気持ちを伝え合いながら、ホストファミリーに感謝の気持ちを込めて、贈り物を手渡しました。数日間という短い期間ながら、心の距離がぐっと縮まったことを実感できる、温かい締めくくりとなりました。



今後に向けて

IYEOでは、今後もこうしたホームステイ型国際交流を通じて、国境を越えたつながりを生み出し、地域社会と世界を結ぶ活動を推進してまいります。今回の福島プログラムでは、IYEOメンバーのみならず、参加者・学生・ホストファミリーの三者にとって、互いの文化を尊重し理解する貴重な機会となりました。

今後も全国各地で同様の取り組みを展開してまいります。各都道府県IYEOの皆様、ぜひ引き続きのご協力をお願いいたします。今後も一緒に取り組んでいけますと幸いです。

06 全事業交流会

2025年3月16日に国立オリンピック記念青少年総合センターにて、全ての内閣府青年国際交流事業（国際社会青年育成事業、日本・中国青年親善交流事業、日本・韓国青年親善交流事業、「東南アジア青年の船」事業、「世界青年の船」事業）を横断した、全事業交流会を開催しました。

このイベントは、IYEO新規会員を増やすため、2024年度の事業参加青年とIYEO会員の参加を想定し、全事業横断の報告会と参加者のネットワーキングを目的に、各事業の既参加青年から構成されるIYEOオンボーディングチームによる初の試みとして企画・運営されました。



2024年度参加青年19人、既参加青年48人の計67人（主催者・実行委員など関係者12名含む）が参加し、各事業の今年度参加青年による事業報告、既参加青年による講演の他、参加者同士の親睦を深めるミニゲームやテーマごとの座談会や昼食会が企画されました。



参加者アンケートでは、9割以上の方がイベントに満足と回答いただき、大好評でした！お忙しい中ご参加いただいた皆様、準備を応援してくださった関係者の皆様に御礼申し上げます。IYEOでは、今後も事業の枠を超えた交流イベントを開催していく予定です。ぜひ縦横のつながりをつくり、一緒に活動していきましょう！



07 Meetupイベント

IYEO広報チームでは、ゲストを招いたMeetupイベントを複数回開催しており、2025年7月27日に第三弾を開催しました。

今回のゲストは樺澤まどかさんです。早稲田大学卒業後、吉本興業に入社し、とろサーモン・かまいたちなど人気芸人のマネージャーを務める傍ら、自らも曲を出しステージに上がるなどマルチに活躍されていました。2023年に吉本を退社後、ワーキングホリデー制度を利用しオーストラリアへ拠点を移し、その様子をYouTubeで発信して登録者は8万人超、その他InstagramなどSNSでの発信も行っているらしいです。

イベントでは第一部として、トークセッションを行いました。質問者との対話形式で、樺澤さんのこれまでとこれからを深掘りしました。SNS上だけでは聞けないお話から、挑戦することに対する樺澤さんの熱い想いまで、貴重なお話がたっぷり聞けました。



第二部では、グループワークショップを行いました。参加者のみなさんを4つのグループに分け「挑戦したいこと」についてクレイジー8という手法を用いて考えていただきました。面白いアイデアから現実的すぎるものまで、とても興味深かったです。



イベント後は希望者で懇親会を開催しました。より堅苦しくない雰囲気での交流ができ、樺澤さんとはもちろん、参加者同士の繋がりもできた貴重な時間となりました！

